

春



年頭あいさつ

神崎町長
石橋 輝一

一歩ずつ着実な前進を

新年あけましておめでと
ございます。

町民の皆様には希望に満ちた
輝かしい新春をお迎えのこと
とお慶び申し上げます。

今年はずみ年、ねずみは
大変素早い行動と働き者、子
孫繁栄の勢いも旺盛です。干
支にならって、本町も小さな
町ながら小回りのきく、スピ
ード豊かで行き届いた行政の
執行をめざして今年も頑張っ
てまいります。

私は就任以来、本町におけ
る当面するところの課題は行
政改革の推進こそ急務とし
てとらえ、ムダの徹底排除と
事務効率の向上をめざして三
年有余、全力を尽くして取り
組んでまいりました。

町民皆様の深いご理解と温
かいご協力のお陰をもってそ
の成果は着実に挙っておりま
す。

平成18年度決算では差引収
支額で2億1500万円の剰
余金を生み出すことが出来ま
した。実質単年度収支は約3
000万円の黒字、前年度が約

3200万円の赤字ですから、
対前年度比較6200万円余
りの収支改善が出来ました。

経常収支比率^{95.8%}、実質公
債費比率^(三年間平均)18.3%と
まだまだ高い値にありますが、

実質公債費比率は年々低く
なっており、19年度は17%台
にまで改善される見通しであ
ります。

然しながらなお、本町の財
政事情はまだ非常に厳しい
状況であることに変わりはい
りません。引き続きシツカ
リと足元を固め、脇を締めて
堅実な行政運営を図ってま
いる所存であります。

平成の大合併、第二ステ
ージも残すところ二年程とな
りました。本町の合併問題で
ありますが、昨年、県の枠組み
構想として、富里市や芝山町、
多古町、栄町に本町も含めた
周辺一市四町は成田空港圏と
いう位置付けから成田市との
合併こそベターであるとの考
えが示されました。

県の構想が示される以前か
ら周辺市町村との連携を保ち

成田空港圏自治体連絡協議会
への加入等を契機に成田市と
の合併を模索してまいりまし
た。その後、合併にむけた一
市四町首長懇談会が富里市長
を会長にして結成され周辺一
市四町はこぞって成田市との
合併にむけた行動を、全力を
尽くして展開して行こうとの
認識で一致し、その意思統一
を図ったところであります。

さらに成田市長を会長として、
空港周辺9市町で組織する成
田国際空港都市づくり推進会
議が立ち上がるなど、羽田空
港との競争に対抗するには空
港圏を核とした都市づくりこ
そ必要であるとの認識から動
きが活発化してまいりました。

こうした環境を的確にとらえ
て、町民皆様の意向を背景と
して、これからも早期合併の
実現にむけて本町の主張を唱
えていく所存であります。が、
何と言っても頼みとするのは
成田市の動向にすべてを期待
するより外ありません。なお
時間は要すると思われませんが、

町民の皆様と町執行部、議会と
が一体となった総掛りで未来
に向けた本町の生きる道を追
求してまいりたいと思えます。

さらに圏央道神崎IC設置に

係わる拠点整備への取り組み
ですが、本町の活性化には、
とりわけ農商工の振興と町全
体の経済力を高め民力向上の
ためには、このプロジェクト
の実現こそ不可欠との信念に
変わりありません。

成田空港を核とした北総地
域の開発こそ、今一番立ち遅
れております。千葉県政にと
つても地域格差を解消すべく
たいへんな課題であると思
います。国の表玄関として位置
づけられた成田国際空港の周
辺都市づくりなくして、羽田
空港との競争に勝てるすべも
ないものと思えます。その意
味でも松崎地先への拠点づく
りは単に神崎町だけでなく、
国、県の重要な施策であると
私は確信しております。

一歩、そしてまた一歩の着
実な歩みを続けて、町民の皆
様の安全、安心な町づくり、
福祉向上にむけた行政運営に
邁進してまいります。

最後に、町民すべての皆様
の限りないご発展とご多幸、
ご健康を心からお祈り申し上
げまして、年の始めにあたっ
てのご挨拶いたします。

本年もよろしくお願い申し
上げます。

1 経常収支比率：町税、地方交付税等の毎年決まって収入される総額に対する、人件費、扶助費、借入返済金等、毎年決まって支出される総額との割合を示す指標で、80%程度が望ましいとされている。
2 実質公債費比率：町の予算規模に対する、町の借入返済金の割合で、比率は低いほど良く、18%以下にすることが求められている。この借入返済金には、ゴミ処理等を共同で行う事務組合の借入返済金の町負担分が含まれている。